

ふれあい

県西部浜松医療センター
広報誌 第2号
平成19年1月発行



基本理念 私たちの目ざすもの

市民に愛され、地域を支える病院
一人ひとりの尊厳を保つ、確かな医療
日々の自己研鑽と、未来への継承

緩和ケアチームが発足しました

緩和医療(緩和ケア)とは、がんをはじめとした、治すことがむずかしい深刻な状況にある患者と家族の「quality of life (QOL): 生命の質」をできるだけ向上させる医療(ケア)と定義されています。そして実際には、そういった患者さんに生じる痛みをはじめとしたさまざまな身体症状や、精神的・心理的な問題などに対処することによって、「苦痛(つらさ)」を予防、軽減し、生きることに喜びを感じていただけるようになることを目指しています。このような医療の実現には様々な専門職種によるチーム医療が必要なため、当院では2006年9月から「緩和ケアチーム」を結成して活動を始めました。緩和ケアチームは緩和医療科医師、専門の看護師(ホスピスケア認定看護師)、薬剤師、精神科医、臨床心理士を中心メンバーとした多職種合同チームで、病院内で各科の主治医の依頼のもと、主治医と協力して、痛みなど身体症状のコントロールや、精神・心理的問題の解決などの様々な問題の対処にあたります。(緩和医療科 佐々木一義)

〒432-8580

浜松市富塚町 328 県西部浜松医療センター

TEL053(453)7111 / FAX 053(452)9217

URL <http://www.hmedc.or.jp>

E-Mail koho@hmedc.or.jp

《編集後記》 体調を崩しやすい時期です。

第2号は風邪と食生活を掲載しました。参考になれば幸いです。 発行:広報委員会



風邪 予防に

今年も冬がやってきました。風邪やインフルエンザから健康を守る方法は、手洗いとインフルエンザワクチン接種です。

多くの風邪ウイルスは手指を介して感染します。風邪を引いている人が鼻をかんだりすれば、ウイルスは手に付着します。その手でドアノブや手すりなど握れば、ウイルスはこれらに付着してしまいます。ウイルスはこのような環境表面に数時間生きることができます。そこで、私たちがドアノブなどに触れば、ウイルスは手指に付着し、その手指で自分の目や鼻の粘膜を擦ると感染するのです。従って、手洗いは大変有効な感染予防法といえます。一方、インフルエンザは感染力が大変強いので、手洗いのみでは防ぐことができません。インフルエンザに対する抵抗力をつけることが大切です。そのためにはインフルエンザワクチンを接種することが推奨されます。

最近ではインフルエンザワクチンを接種する方が増えてきましたが、このようなことは大変好ましいことです。

(感染症科 矢野邦夫)



新年のご挨拶

～ 院長：脇 慎治 ～

新春のお慶びを申し上げます。

現在、当センターは免震工事中であります。

患者さんをはじめ多くの方々に、ご迷惑をおかけしていますが工事が無事に計画通り進行するようお願いしております。今年も職員一同、地域への貢献に、より一層の努力をいたします。今後とも、ご指導よろしくお願ひ申し上げます。

～ 事務部長：大石 哲司 ～

新年明けましておめでとうございます。

医療センターでは、昨年に引き続き免震工事を実施いたしますが、来院される皆様方への影響を最小限になるよう努めてまいります。今年も、質の高い医療サービスの提供と地域に貢献する病院を目指して職員一同まい進してまいります。

～ 診療支援部長：後藤 正 ～

新年を迎え佳き年のお慶び申し上げます。

昨年は救急医療体制が改善し、仕事量が増加しながらも質の向上が図れました。本年も先進高度医療と安心安全な医療を目指し、個々の患者さんにとって最適な医療を支援していきます。

～ 看護部長：山本 加枝子 ～

新年おめでとうございます。

看護師配置基準 7 : 1 を維持し、“猪突猛進”とならないよう思慮深く、心のかもった安全と安心の看護を提供し、地域の皆様に信頼される病院づくりに努めていきたいと思ひます。

全国に先駆けて、持参薬管理システムを導入しました！

当院では、平成18年9月から持参薬管理システムを導入しました。このシステムは入院患者さんが持参された薬の調査鑑別を行い、服用の指示を出すといった一連の流れをコンピュータ化したものです。

患者さんの持参される薬の中には、今回の治療上、飲んではいけない物や、薬剤の相互関係で身体に危険を及ぼす物があるため、病院での管理が重要となってきました。そこで持参薬の安全管理を目的として全国に先駆け、持参薬管理システムを導入いたしました。主治医はこのシステムを用いて、薬の効能及び危険性を確認し投薬指示を出します。患者さんの安全確保や医療費負担の軽減へとつながる画期的なシステムとい

えます。持参薬管理システムの導入により、処方適正な指示・管理が可能な環境が整っておりますので、安心して持参薬をお持ちくださるようお願いいたします。
(薬剤科)



食べ過ぎ飲み過ぎにご注意を！

年末年始はついつい食べ過ぎ、飲み過ぎ傾向になりがちですが、あなたの体重は増えていませんか？もしかして恐くて体重計に乗っていないとか・・・。

1kgの体重増加は約7000kcalのエネルギーの蓄積によるもので、明らかに食べ過ぎが考えられます。この食べ過ぎが習慣になってしまうことがメタボリックシンドローム症候群(腹部肥満の依存により高脂血症、高血圧、高血糖など危険因子を併せもつ状態)への一歩につながります。お正月のあとに七草粥という行事がありますが、食べ過ぎた胃を休めるという意味がありますね。年末年始のお休みが終わったら、いつもの食生活にもどすように心がけましょう。体重は毎日1回、同じ時間に測定することで、ご自分の健康管理のパロメータ-になります。増えた体重はいつもの体重にもどしましょう！

ちなみに身長m×身長m×22ぐらいが一般的にいわれる標準体重です。

(栄養科)

